

第15回 岐阜県新型コロナウイルス感染症 教育推進協議会 議事要旨

日 時	令和4年1月13日(木) 16:00~17:10
場 所	県庁4階 特別会議室
出席者	<p><委員> 14名 松川 禮子 委員、益子 典文 委員、堀 貴雄 委員、水川 和彦 委員、 名取 康夫 委員、石田 達也 委員、高橋 清仁 委員、服部 照 委員、 下屋 浩実 委員、加納 顯 委員、青山 節児 委員(岩久義和氏代理出席)、 木野 隆之 委員、村上 啓雄 委員、竹内 治彦 委員 (青山委員(岩久氏代理出席)、木野委員はWeb会議システムで参加)</p> <p><県> 知事、平木副知事、河合副知事、教育長(委員) 環境生活部長、子ども・女性局長、私学振興・青少年課長 副教育長、教育次長、義務教育総括監、教育総務課長 他</p>
議題	<p>議題1 県内の感染状況について 議題2 学校における感染状況等について 議題3 オミクロン株の特性を踏まえた陽性発生時の学校対応について 議題4 公立高校入試の日程と対応について</p>
配布資料	<p>資料1 県内の感染状況について 資料2 学校における感染状況等について 資料3 オミクロン株の特性を踏まえた陽性発生時の学校対応について 資料4 公立高校入試の日程と対応について</p> <p>参考資料1 新型コロナウイルスの懸念される変異株、オミクロン株に対応した学校 における感染症対策に係る留意事項について(令和4年1月7日) 参考資料1-2 新型コロナウイルス感染症対応チェックリストについて 参考資料2 新型コロナウイルス感染症に対応した令和4年度高等学校入学 者選抜等の実施について(令和3年12月28日) 参考資料3 令和4年度高等学校入学選抜等における受検機会の更なる確 保について(令和4年1月11日)</p>

議事概要

【議題1～3について】

- ・ オミクロン株は感染力が強く、潜伏期間が短いという特徴がある。マスクの着用やチェックリストの活用、コロナガードの活用等、もう一度、気を引き締めて点検したい。
- ・ 学級閉鎖や学年閉鎖を保健所の判断を待たずに遅滞なく行っていくことに関して賛成である。保健所の感染に関わる調査で、全体像がつかめるまでの数日は閉鎖をすればよいのではないか。
- ・ 現在、小中学校では、クラスで陽性者が出た場合、広がっている可能性があれば学級閉

鎖を行い、保健所が全員にPCR検査を実施。その結果、陰性であれば5日を待たず再開しているが、今後も同様の取り扱いとしてよいか。

→陰性であって、登校の際にはきめられた感染防止対策を適切に行っていれば、感染拡大の可能性は低い。

- ・ 家族の接触、帰省によって感染拡大している。ただし、オミクロン株は潜伏期間が短い
ため、感染しているかは見つけやすい。本学でも発症日前日に登校した生徒がいたが、マ
スク着用、換気など感染防止をきちんとすれば、広がっていなかった。

- ・ 資料に示されている学級閉鎖の新基準について、感染が分かれば保健所の指示を待たず
に一旦、閉めるという判断でよいか。また、現状を踏まえ、これまでに校外活動を延期し
ている学校があるが、今後の実施の判断はどのようにすればよいか。

→感染が急拡大であるため、現段階においてはまん延防止等の状況ではないため、全活動
を停止することとしていないが、各学校は状況を見て取りやめている傾向はある。

県立高校の修学旅行については、1月実施の学校は中止・延期しているところが多い。

- ・ 学級閉鎖の新基準の運用については、市町村での判断ということであるが、県立学校に
準じる形で運用することになるだろう。
- ・ 第5波に比べ、大人も含めて、多くが登校、出勤を控えている状況にある。県立高校の
対応と同様、小中学校においても感染症対策の初動を急ぐことが重要であるとする。

【議題4について】

- ・ 濃厚接触者となった受検生についても、無症状であれば同日に受検することが公平であ
る。受検会場については、席の間隔の確保、アクリル板の設置、換気の徹底など、より慎
重な対応を行ったうえで、同日受検とすることが望ましい。

- ・ 濃厚接触者となった受検生が複数となった場合、受検生間での感染とならないように、
より慎重に対応する必要がある。また、教員が監督するにあたり、例えば、受検会場が廊
下からガラス越しで監督できる場合は、そのような対応を考えてもよいものか。

→監督にあたっては、公平性の担保、トラブル回避の観点から、受検生と十分な距離を確
保して、室内で監督することが望ましい。過剰な対応にならないように留意されたい。

- ・ 受検機会の確保の観点から、無症状である濃厚接触者が、別室において受検可能となれ
ば、受検生にとっては安心感につながる。

- ・ 高校入試は中学生が今後の進路を決定する重要な機会である。検査、追検査、第二次選
抜と3回の受検機会が確保されているが、定員が充足している高校を受検する中学生にと
っては2回となってしまう。検査も追検査も受検できなかった場合はどうするのかという
不安が中学生にはあると思う。可能であれば、充足している学校においても、2回の検査
とは別に、特別な選抜の実施を検討してもらえるとありがたい。いずれにしても、一次の
願書を出願する段階までに、どのように対応するのか決めていただきたい。

- ・ 私立高校入試においても、実施方法を工夫して実施していきたい。学校によっては、音
楽やスポーツ分野の実技試験で、マスクを外して試験に臨むものもある。十分な距離の確
保、アクリル板の設置などを徹底するとともに、試験のためにマスクを外した複数の受験
生が同じ場所にとどまることのないようにしていきたい。

- ・ 現行の第二次選抜は定員未充足の学校で実施されているが、第一次選抜と検査内容も検

査時間も異なる。定員が充足している学校においても、第二次選抜の問題を用いて特別の選抜をすることは、公平性に欠けないか。

- ・ 1回目の試験が陽性で受検できず、その後2週間続けて陽性であったため（追検査が）受検できないことを想定するわけだが、2週間、継続して陽性になることはありうるのか。→ワクチン接種者は、PCR検査で陰性確認しなくても10日間で退院できる。一方、ワクチン未接種者は、現状、国の通知では、連続2回のPCR検査陰性確認が必要となっている。この対応に従えば、2週間以上陽性持続する場合も多い。
- ・ 出願期間まで、1か月をきっている。受検生やその家族のためにも、教育委員会は早く方針を出してほしい。
- ・ 今回議論の対象としている受検生はレアケースである。しかし、ゼロではない。その可能性に対して、教育委員会としての方針をはっきりとしたいため、ご意見を頂戴した。
- ・ 入試に係ることなので、最終的な決定は、教育委員会会議で行うこととなる。教育委員会会議での決定を経て、明確な対応を、できる限り早く受検生に示し、不安なく受検できるようにしていきたい。
- ・ 今回の第6波は、いろいろ議論があったように医療崩壊だけではなく、教育も含めて、社会のあらゆる活動をいかに継続していくか、その問題が問われるほどの急激な感染状況の変化である。このような状況の中で、感染状況のマクロ的なアプローチと教育現場でのデリケートな分野での接点について議論いただいて大変有意義であった。
- ・ 今日の議論を踏まえて、教育委員会としてしっかりと決めていただきたい。柔軟性と公平性、さらに事態の展開の激しさを踏まえて対応してほしい。